

平成25年度自動車アセスメント試験公開の実施結果について

自動車アセスメントについて、マスコミ関係者の広報を通じて一般ユーザーの理解を深めることを目的に試験公開を行った。

本年度は、オフセット前面衝突試験及び感電保護性能試験と共に試験実施車両の有効活用の観点から、つくば市消防本部の協力を得て被害者救出訓練の様相も公開した。

1. 日 時 平成26年2月20日（木）10：20～13：05

2. 場 所 日本自動車研究所（茨城県つくば市荻間2530）

3. 公開内容

（1）アコードハイブリッドのオフセット前面衝突試験及び感電保護性能評価試験のデモ

（3）試験実施車両を事故車に見立てた被害者救出訓練の実施

4. 参加者：105名

（報道関係：48名、一般ユーザー10、交通事故被害者団体6名、名関係者41名、）

5. 報道状況（3月20日現在）

日本テレビ「ニュースエブリー」、「ニュースゼロ」、「Oha! 4 NEWS LIVE」、経済新聞（映像版）で放映されたほか、日刊自動車新聞、交通毎日新聞、茨城新聞、Yahoo ニュース、Goo ニュース、TBSニュース、テレ朝ニュース、E燃費、MSN ニュース、カーセンサー、ボデーショップレポート及びガレージアで記事になった。

6. 公開の様相



試験見学中の報道陣等の様相



オフセット前面衝突試験の取材の様相



被害者救出訓練の様相



ドア切断による救出訓練の様相

CSR NEWS

発行所：株式会社プロトリオス
http://t-web.jp/

NASVA、 自動車アセスメント 試験を公開 HVの事故救出 訓練も実施

自動車事故対策機構(NASVA)は2月20日、日本自動車研究所(茨城県つくば市)で、「2013年度自動車アセスメント試験」の一部を報道関係者や公募の一般参加者、交通事故の被害者団体の関係者らに公開した。また、ハイブリッド車(HV)の衝突事故を想定した、つくば市消防本部のレスキュー隊による被害者救出訓練も併せておこなった。

同試験は、国土交通省とNASVAがより安全な自動車の普及とカーメーカーによる研究開発の促進を目的に、1995年から毎年実施している。今回は、HVのオフセット前面衝突試験と衝突後の感電保護性能評価試験を公開した。感電保護性能評価試験は、評価範囲が2013年度までの「車室内」に加えて、来年度から「車室内・外」へと変更されることを踏まえて車室内と車体外部を対象におこなった。

オフセット前面衝突試験は、ホンダ・アコードハイブリッドLX(DAA・CR6)を使用。運転席と後部座席にダミー人形を載せ、64km/hでアルミハニカムに運転席側の一部(オーバーラップ率40%)を前面

衝突させた。衝突時のダミー人形への衝撃や室内の変形をもとに、乗員保護性能の度合いを5段階で評価する。

感電保護性能評価試験は、近年急速に普及したHVや電気自動車(EV)に事故時の感電被害防止対策が施されているかを確認するための調査。HVの衝突試験後、「感電保護性能要件」(高電圧バッテリー(RESS)の電

解液漏れの有無)「高電圧バッテリー」(RESS)の固定状況」の3点を評価する。なお、今回の試験結果は5月に公表する予定。



ホンダ・アコードハイブリッドLXのオフセット前面衝突試験



市消防本部によるハイブリッド車の衝突事故救出訓練

タ・クラウンハイブリッド・アスリートS(DAA・AWS210)を使って、交通事故によって車内に閉じ込められた被害者3人を救出する訓練がおこなわれた。

HVやEVの事故では、電源を遮断して被害者とレスキュー隊員の安全を確保することが重要。電源の遮断方法は①エンジンのカット(エンジンボタンによる通電の確認および

スマートキーを車両から5m離す)、②トランクにある駆動用バッテリーのサービスパラグを抜く、③トランクにある補機バッテリーのマイナス端子を抜く、④ヒューズを取り外す、の4つ。加えて通電終了まで90秒待つ必要がある。今回の訓練ではヒューズ以外の3つの遮断方法を実施し、通電終了を待って救出活動を開始した。

カーメーカーのサービスマニュアルによれば、ひとつでも電源の遮断には充分だが、訓練に当たったレスキュー隊員は「被害者の安全を確保するだけでなく、自分たちが負傷することで救助が遅れる事態を避けることが前提にある」と、HVの事故時における電源の遮断の重要性を強調した。